

横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和4年1月号 目次

【検査結果】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和3年5月～10月）	1
------------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年12月）	6
------------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和3年12月）	8
-----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和3年5月～10月）

当所では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります(表1)。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことが必要です。

令和3年の蚊成虫捕獲調査は、市内の蚊種類相の把握を目的としたライトトラップ法と、ヤブカ属の捕獲を目的とした人^{ひと}囿法による調査を行いました。ライトトラップ法は、ドライアイス^{ひとおとり}を誘引剤として用いた電池式ライトトラップ(CDC型:写真1)をリスク地点6公園(7か所)、モニタリング地点17公園の合計23公園(24か所)に設置しました。また、捕虫網を用いた人囿法は、リスク地点の4公園(各公園3定点、合計12定点)で行いました(図1、表2)。調査は、各区福祉保健センター生活衛生課、(公社)神奈川県ペストコントロール協会、衛生研究所が行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。ここでは、これらの調査結果について報告します。

表1 主な蚊媒介感染症

疾患名	国内生息の主な媒介蚊	感染環
デング熱		ヒト→蚊→ヒト
ジカウイルス感染症	ヒトスジシマカ	ヒト→蚊→ヒト
チクングニア熱		ヒト→蚊→ヒト
ウエストナイル熱	アカイエカ群	トリ→蚊→ヒト
日本脳炎	コガタアカイエカ	ブタ→蚊→ヒト
マラリア	ハマダラカ属	ヒト→蚊→ヒト

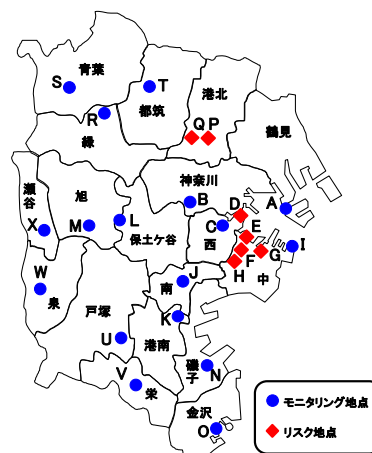


図1 蚊成虫捕獲調査地点

表2 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点
鶴見	大黒中央公園(A) ●	南	蒔田の森公園(J) ●	緑	北八朔公園(R) ●
神奈川	三ツ沢公園(B) ●	港南	久良岐公園(K) ●	青葉	桜台公園(S) ●
西	掃部山公園(C) ●	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園(L) ●	都筑	都筑中央公園(T) ●
	臨港パーク(D) ◆		旭	こども自然公園(M) ●	戸塚
中	山下公園(E) ◆*1	磯子	坪呑公園(N) ●	栄	本郷ふじやま公園(V) ●
	横浜公園(F) ◆*1	金沢	海の公園(O) ●	泉	泉中央公園(W) ●
	港の見える丘公園(G) ◆	港北	新横浜駅前公園(P) ◆	瀬谷	二ツ橋南公園(X) ●
	大通り公園(H) ◆*2		新横浜公園・横浜国際総合競技場(Q) ◆*1,3		
	シンボルタワー(I) ●				

●:モニタリング地点(全10回)
◆:リスク地点(全12回)

*1:ライトトラップ法と人囿法の両法を実施
*2:人囿法のみ実施
*3:東ゲートと西ゲートの2か所で調査を実施

〈ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査をリスク地点6公園(7か所)、モニタリング地点17公園の合計23公園(24か所)で延べ254回行い、結果を表3に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、7属12種8,404個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ5,859個体(69.7%)でした。次いで、アカイエカ群が1,823個体(21.7%)、ヤマトヤブカが232個体(2.8%)、キンパラナカハシカが182個体(2.2%)捕獲されました。

表3 ライトトラップ法による蚊の種類と総捕獲数(24か所:延べ254回^{*4})

属	種	捕獲数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群 ^{*5}	1,799	24	1,823	(21.7)
	コガタアカイエカ	71	0	71	(0.8)
	カラツイエカ	49	0	49	(0.6)
	ハマダライエカ	1	0	1	
	クシヒゲカ亜属	1	0	1	
カクイエカ属	トラフカクイエカ	7	0	7	
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	5,232	627	5,859	(69.7)
	ヤマトヤブカ	227	5	232	(2.8)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	112	0	112	(1.3)
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	147	35	182	(2.2)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	11	2	13	
チビカ属	フタクロホシチビカ	2	3	5	
破損(同定不能)		48	1	49	(0.6)
合計		7,707	697	8,404	



写真1 CDC型ライトトラップ



ヒトスジシマカ 雌成虫

*4: リスク地点(7か所)は全12回、モニタリング地点(17か所)は全10回調査を行った。

*5: アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネツタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、北八朔公園(緑区)の893個体で、次いで、臨港パーク(西区)が886個体、掃部山公園(西区)が881個体でした。種類別にみると、ヒトスジシマカは、掃部山公園で840個体と最も多く捕獲され、次いで北八朔公園が716個体でした。アカイエカ群は、シンボルタワー(中区)で296個体と最も多く捕獲され、次いで臨港パークが255個体でした。コガタアカイエカは、蒔田の森公園(南区)で19個体と最も多く捕獲され、次いでシンボルタワーで18個体でした。

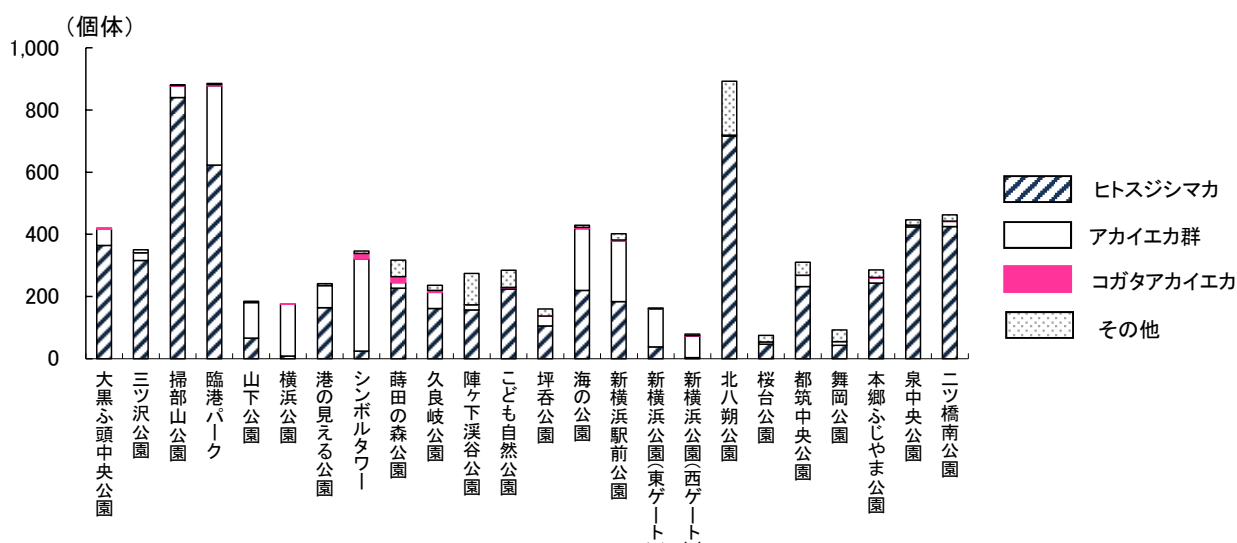


図2 調査地点別の蚊捕獲数

ひとひとり

〈人囀法によるヒトスジシマカ成虫捕獲調査〉

山下公園、横浜公園、新横浜公園・横浜国際総合競技場(以下新横浜公園とする)、大通り公園の4公園合計12定点において(図3) ^{ひとひとり}人囀法(写真2)による蚊成虫捕獲調査を各12回(延べ143回)行いました(7/14の横浜公園定点④は、立ち入り禁止のため実施できず)。捕獲されたヒトスジシマカは、雌成虫が206個体、雄成虫が288個体、合計494個体でした。



【山下公園】①発電設備横 ②中央広場付近の植え込み ③世界の広場端の緑地



【横浜公園】④旧市役所前 ⑤遊具広場横
⑥日本庭園スタジアム側



【新横浜公園・横浜国際総合競技場】
⑦東ゲート駐輪場奥 ⑧北ゲート階段奥
⑨西ゲート広場脇



【大通り公園】⑩石の広場脇の小屋前
⑪水の広場信号横のベンチ後 ⑫テニスコート横の小屋前

ひとひとり
図3 人囀法の調査定点

ひとおとり
〈人囮法による各調査定点のヒトスジシマカ捕獲数〉

ひとおとり
 人囮法による各調査定点のヒトスジシマカ捕獲数を表4に示しました。

山下公園は、4公園の中で捕獲数が最も多く、雌成虫96個体、雄成虫110個体、合計206個体でした。横浜公園は、雌成虫52個体、雄成虫96個体、合計148個体でした。大通り公園は、雌成虫49個体、雄成虫81個体、合計130個体でした。新横浜公園は、雌成虫9個体、雄成虫1個体、合計10個体と少ない捕獲数でした。

ひとおとり
表4 人囮法によるヒトスジシマカ捕獲数

公園名	定点	ヒトスジシマカ捕獲数		
		雌	雄	合計
山下公園	①	34	12	46
	②	21	15	36
	③	41	83	124
横浜公園	④	16	18	34
	⑤	2	8	10
	⑥	34	70	104
新横浜公園・ 横浜国際総合 競技場	⑦	7	0	7
	⑧	2	1	3
	⑨	0	0	0
大通り公園	⑩	12	19	31
	⑪	22	31	53
	⑫	15	31	46
合計		206	288	494



ひとおとり
写真2 人囮法

ひとおとり
〈人囮法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長〉

ひとおとり
 人囮法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の消長(各公園3定点の合計捕獲数)を図4に示しました。

ヒトスジシマカ雌成虫は、大通り公園では5月から10月の調査期間を通じて毎回捕獲されました。山下公園と横浜公園は、6月に捕獲されない日がありましたが、そのほかの調査日には捕獲されました。

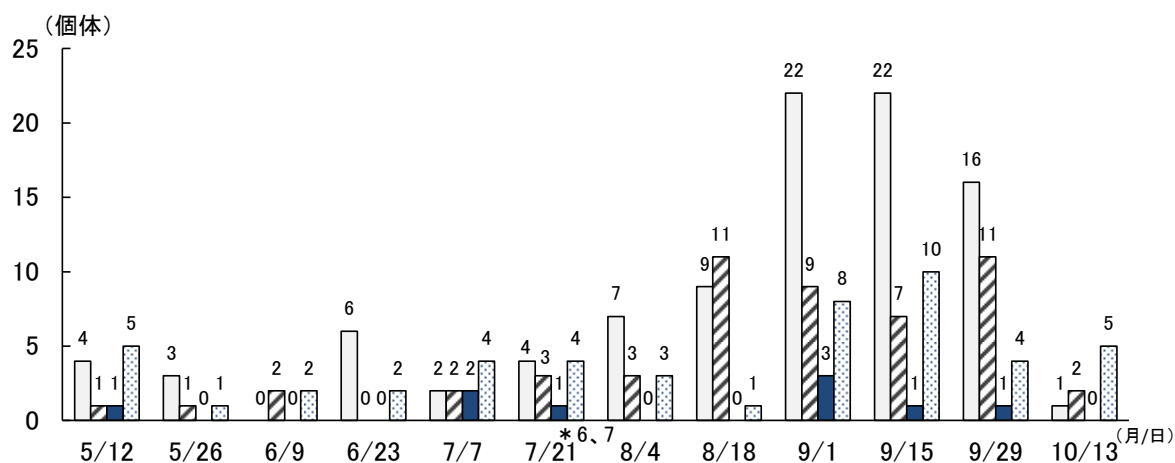
4公園の中で捕獲数が最も多かった山下公園の各調査回のヒトスジシマカ雌成虫合計捕獲数は、初回調査の5/12に4個体捕獲され、8/18までは9個体以下と少ない捕獲数でしたが、9/1、9/15には各22個体と増加しました。9/29には16個体とやや減少し、調査最終回の10/13は1個体でした。

横浜公園は、8/4までは、捕獲数が少ない傾向でしたが、8/18に11個体となり、9/1から9/29にかけて7～11個体捕獲されました。調査最終回の10/13は2個体でした。

大通り公園は、8月までは、捕獲数が少ない傾向でしたが、9/1に8個体、9/15に10個体とやや増加し、9/29は4個体、10/13は5個体捕獲されました。

山下公園、横浜公園、大通り公園は、9月にヒトスジシマカ雌成虫が多く捕獲される傾向でした。

新横浜公園は、調査期間を通じて捕獲数が少なく、9/1が最も多く3個体でした。



* 6 横浜公園と大通り公園は7/14、新横浜公園は7/28に実施

* 7 横浜公園は定点④立ち入り禁止のため、2か所の合計値

□山下公園 ▨横浜公園 ■新横浜公園 ▤大通り公園

ひとひとり
図4 人囀法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長

〈ウイルス検査〉

ライトトラップ法によって捕獲された雌成虫7,707個体、ひとひとり法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫206個体について、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施し、全て不検出でした。

なお、詳細は、衛生研究所ウェブページに掲載されています。

横浜市衛生研究所ウェブページ:感染症発生状況資料集>病原体情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

【 微生物検査研究課 医動物担当 ウイルス担当 】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年12月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年12月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年12月の総アクセス数は、211,178件でした。前月に比べ14.1%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*76.9%、保健情報10.6%、検査情報月報3.6%、食品衛生3.1%、薬事2.3%、生活環境衛生1.7%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

表1 令和3年12月 アクセス順位

12月のアクセス順位（表1）

を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「トキソプラズマ症について」、2位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、3位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。8位には、「粉ミルク(乳児用調整粉乳)を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか?」が入っています。

順位	タイトル	件数
1	トキソプラズマ症について	13,068
2	ぎょう虫(蟯虫)症について	8,770
3	横浜市感染症情報センタートップページ	7,040
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	6,281
5	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	6,118
6	EBウイルスと伝染性単核症について	6,065
7	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	5,106
8	粉ミルク(乳児用調整粉乳)を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか?	4,802
9	サイトメガロウイルス感染症について	4,755
10	手足口病について	4,037

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年12月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 令和3年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
予防接種について	1

2 追加・更新記事

令和3年12月に追加・更新した主な記事は、2件でした(表3)。

表3 令和3年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 1日	2021年度蚊媒介感染症サーベイランス最終結果	掲載
12月16日	感染症に気をつけよう(12月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和3年12月）

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎の報告数が第45週から増加しています。
- 新型コロナウイルス感染症は、低めの報告数で推移しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が13件で、高い水準で続いています。
- 梅毒の報告が19件で、高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	13件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	19件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件	百日咳	1件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症：O157が6件(うち無症状病原体保有者1件)、O不明5件(いずれも無症状病原体保有者)、O121が1件、O28が1件(無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 E型肝炎：無症状病原体保有者1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症：肺炎型5件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢：腸管アメーバ症2件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症：G群2件、A群1件、血清群不明1件の報告がありました。そのうち2件は創傷感染が推定されています。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)：無症状病原体保有者1件の報告がありました。同性間性的接触による感染が推定されています。
- 8 侵襲性インフルエンザ菌感染症：70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症：10歳未満1件(ワクチン接種歴4回有)、40歳代1件(ワクチン接種歴不明)、60歳以上で3件(ワクチン接種歴不明2件、ワクチン接種歴無1件)の報告がありました。
- 10 梅毒：男性13件女性6件、早期顕症梅毒Ⅰ期10件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者4件で、そのうち16件は性的接触(異性間10件、同性間4件、詳細不明2件)による感染が推定されています。
- 11 播種性クリプトコックス症：免疫不全によるものと推定される60歳代の報告が1件ありました。
- 12 百日咳：20歳代1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

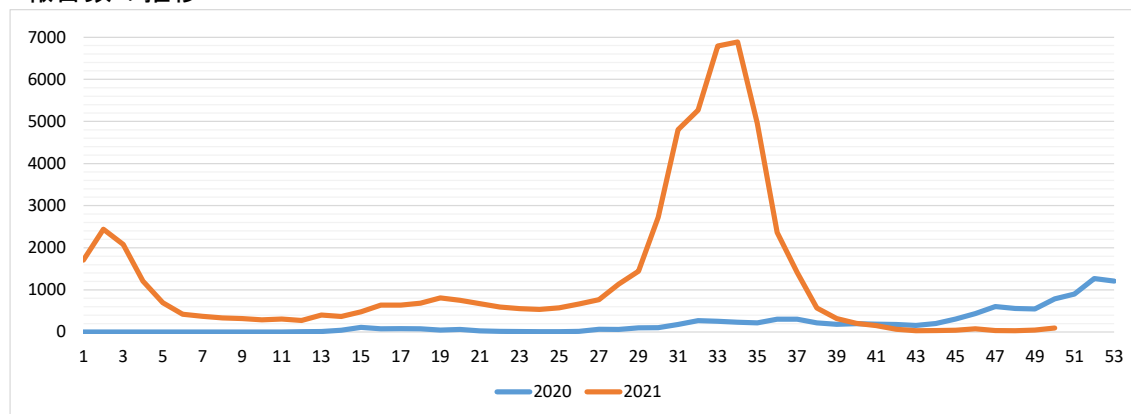
第47週～第50週に横浜市から報道発表のありました症例は204件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoyobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

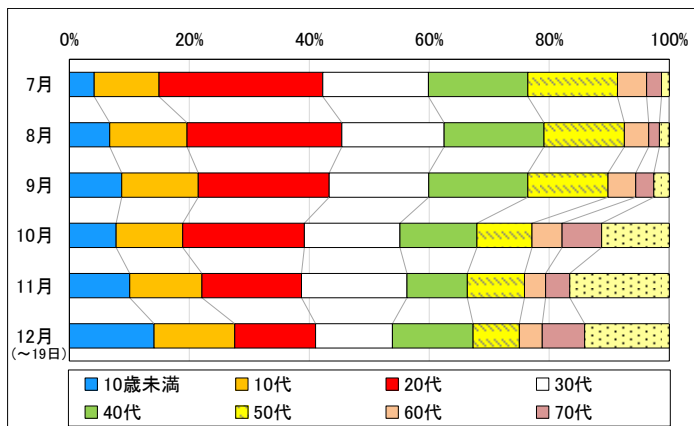
1 報告数の推移

[人]

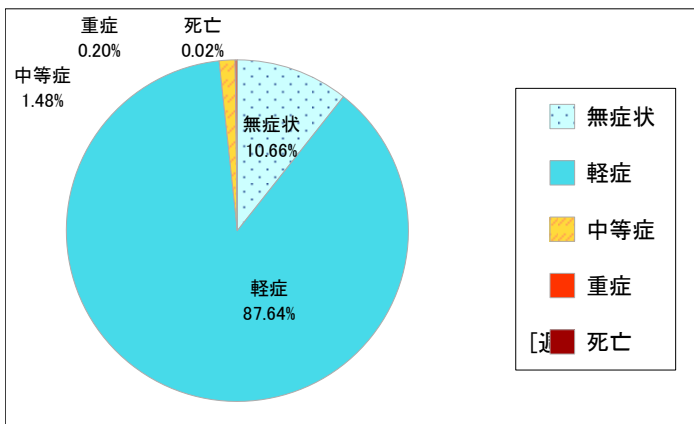


[週]

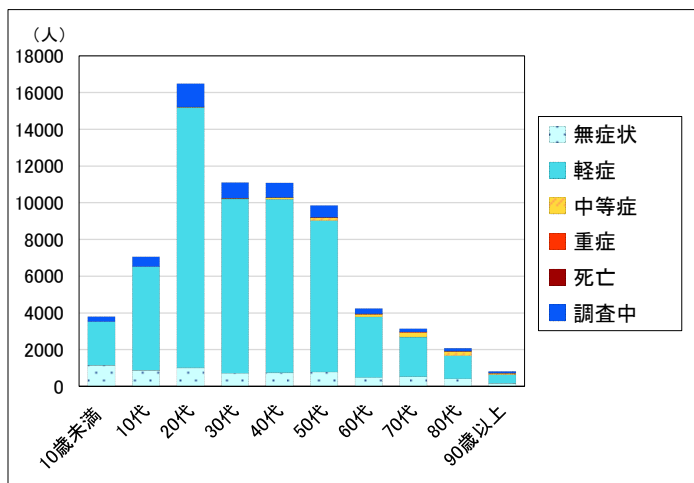
2 年齢別割合



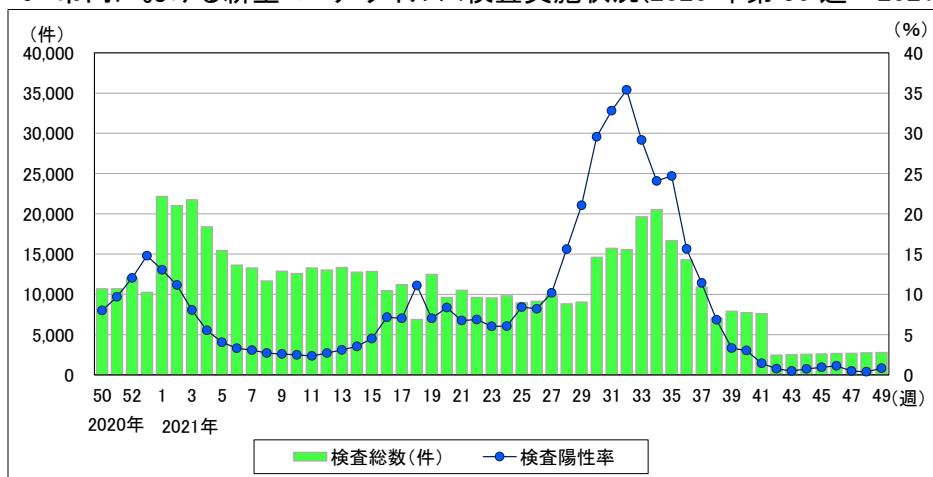
3 陽性確定時の症状の割合(2021年第50週まで)



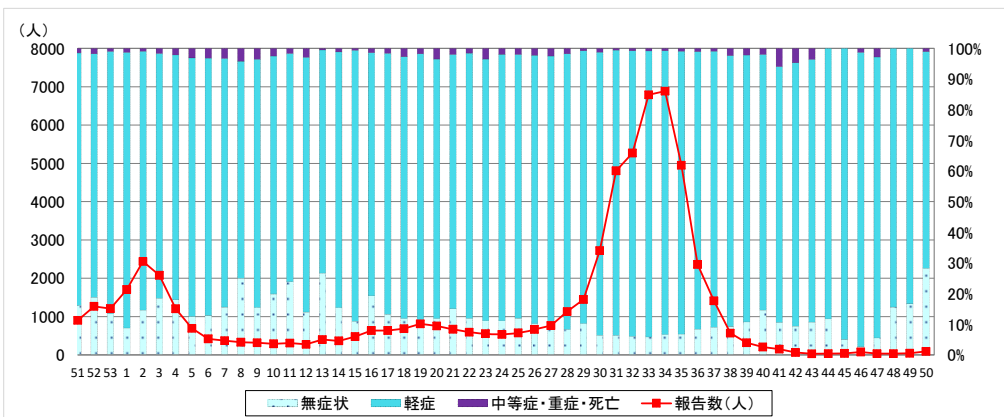
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2021年第50週まで)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2020年第50週~2021年第49週)



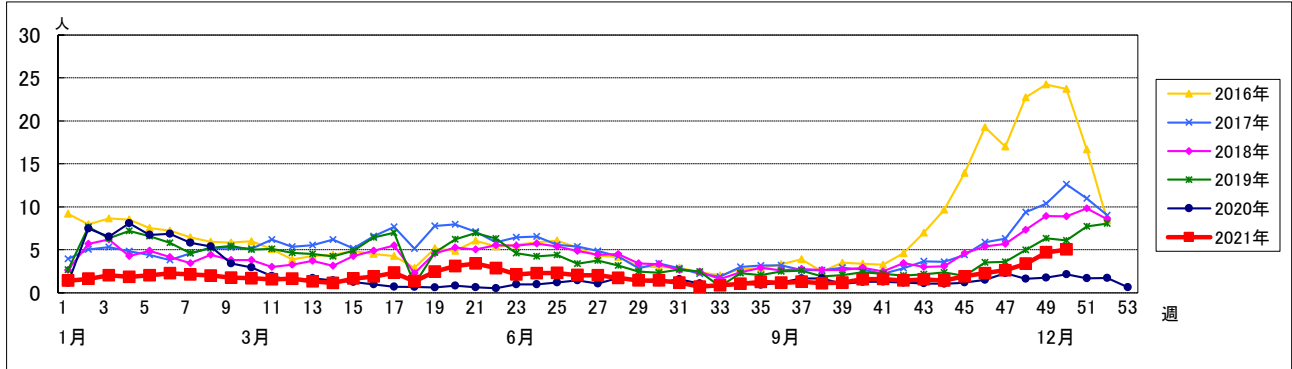
※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計



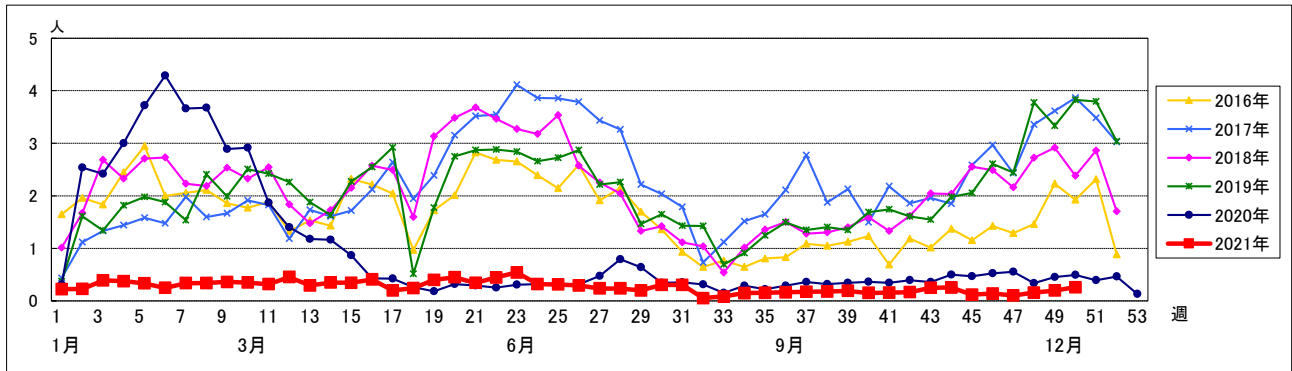
報告週対応表	
第47週	11月22日～11月28日
第48週	11月29日～12月5日
第49週	12月6日～12月12日
第50週	12月13日～12月19日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 昨年より高めの報告数で推移していて、第47週2.60、第48週3.36、第49週4.68、第50週5.02と増加しています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第47週0.10、第48週0.16、第49週0.20、第50週0.26となっています。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:0件	淋菌感染症	男性:19件	女性:5件

4 基幹定点週報

	第47週	第48週	第49週	第50週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.33	0.33	0.33
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.33	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月期(2021年第47週～第50週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、内科定点3件、眼科定点1件、基幹定点3件、定点外医療機関からは3件でした。

ライノウイルス遺伝子2件、コクサッキーウイルスA6型遺伝子1件、アデノウイルス6型遺伝子1件、単純ヘルペスウイルス1型分離1株、アデノウイルス1型分離1株及びアデノウイルス2型分離4株が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第47週～第50週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	手 足 口 病	無 菌 性 髄 膜 炎
アデノウイルス 1型	1 -			
アデノウイルス 2型	4 -			
アデノウイルス 6型		- 1		
ライノウイルス	- 1	- 1		
単純ヘルペスウイルス 1型				1 -
コクサッキーウイルス A6型			- 1	
合計	5 1	- 2	- 1	1 -

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

12月期(2021年第47週～第50週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、クリプトコッカス2件の検査依頼がありました。非定点からの検査依頼は、非結核性抗酸菌2件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌8件、劇症型溶血性レンサ球菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件、カンピロバクター3件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ4件の検査依頼がありました。「小児サーベイランス」の小児科定点から消化器系病原菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2021年第47週～第50週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Citrobacter freundii</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	クリプトコッカス	2	<i>Cryptococcus neoformans</i> (2)	
保健所	非定点 非結核性抗酸菌(NTM)	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscesses</i> (1) <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)	
	腸管出血性大腸菌	8	O157 : H7 VT1 VT2 (3)、O157 : H- VT1 VT2 (1)、 O157 : H- VT2 (1)、OUT : H- VT1 (1)、 OUT : H+ VT1 (1)、OUT : H+ VT2 (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	3	A群溶血性レンサ球菌 UT (2)、 G群溶血性レンサ球菌 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
	侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> e型 (1)	
	カンピロバクター	3	<i>Campylobacter jejuni</i> (3)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、不検出(3)
小児サーベイランス	材料	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	直腸ぬぐい液	消化器系病原菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> エンテロトキシンB (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】